

## あ い さ つ

第96号「三好教育研究所 所報」の発行にあたり、ごあいさつを申し上げます。

今、学校教育に求められることは、子どもたち一人一人が自ら個性を発揮し、課題に立ち向かい、未来を切り拓いていく力を育成することです。つまり、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」などの「生きる力」を育てることが必要であるとされています。

三好地域の学校現場では、これらの力を育てるため従来の学習活動はもとより、幼小中高をつなぐ各連携事業、地域の教育力を活用したコミュニティスクールなど学校支援事業、外国語活動を取り入れたコミュニケーション能力育成、また、ICTを活用した教育など多種多様な内容の教育活動が展開されています。そして、各校の全教職員の創意を結集し、豊かな発想と工夫により取り組みが推進されており、本年度も多大な成果を残されています。

そんな中、本年度も研究主題「未来を切り拓き、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」として7名の先生方に研究を委嘱し、それぞれの学校現場において実践研究を進め、研究成果をおまとめいただきました。児童・生徒の実態を的確にとらえ、学ぶ楽しさを味わわせながら課題に取り組ませることは、自ら学び自ら考える子どもたちの育成を図る上で大変重要なものであると考えております。「わかる喜び」を感じる子どもの育成を目指し意欲的に研究実践に取り組んでいただいた諸先生方に対し、深く敬意を表します。

これらの貴重な研究成果を所報に掲載させていただいております。

子どもたちが「楽しい」「もっと学びたい」「もっと話したい、伝えたい」といきいきと活動する教育の創造、そして、教える楽しさを実感し、子どもたちの健やかな成長に感動し教師が成長するというこれらの取り組みが、三好地域の多くの先生方に共有され、その実践が広く普及・定着していくことを願っております。

最後になりましたが、三好教育研究所の諸事業に対しまして、関係の皆様にご指導ご協力を賜りましたことを心より御礼を申し上げますとともに、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をいただけますようよろしくお願いいたします。

平成28年3月

三好教育研究所長 吉田美千代

# 目 次

あいさつ

三好教育研究所 所長 吉田 美千代

## ———— 委嘱研究員研究 ————

- 自分の大切さとともに、他者の大切さを認めることができる子どもの育成……………1  
～幼児一人一人に寄り添った保育をめざして～

辻 幼稚園 教諭 真鍋 友子

- 動きのおもしろさを味わい夢中で運動に取り組む児童の育成……………4  
～器械運動や陸上運動，水泳の苦手意識を取り除く～

加茂小学校 教諭 大西 勇貴

- 西井川の人，自然文化と関わりながら，  
地域の一員としての自覚を育てる総合的な学習の時間 ……………8

西井川小学校 教諭 藤川 美香

- 自分の思いを豊かに表現できる子どもの育成を目指して……………12  
～体験活動を取り入れた言語活動の充実を図る指導を通して～

箸蔵小学校 教諭 新藤 茂美

- 自ら学び，たくましく生きる「あわしっ子」の育成 ……………15  
～少人数の強みを生かした教育の実践を通して～

吾橋小学校 教諭 長岡 鷹太

- 「英語でおもてなし～O・Mo・Te・Na・Shi～」……………18

西祖谷中学校 教諭 芳川 未弥

- 主体的に学習に取り組む生徒の育成をめざして……………21  
～関数の学習を通して～

東祖谷中学校 教諭 岡田 祐佳

- 平成27年度 三好教育研究所事業報告 ……………24

- 歴代委嘱研究員一覧（平成元年～）

## 研究主題

自分の大切さとともに、他者の大切さを認めることができる子どもの育成  
～幼児一人一人に寄り添った保育をめざして～

辻幼稚園 教諭 真鍋 友子

### 1 はじめに

平成27年度の辻幼稚園には、4歳児6名、5歳児19名、計25名の園児が在籍している。体を動かして遊ぶことが好きな子どもたちの元気いっばいの笑い声が、いつも園内に響きわたっている。私は、4歳児6名（男児2名、女児4名）の担任をしている。そこで、少人数クラスのよさを生かし、一人一人の幼児とのかかわりを密にしながら幼児理解を深め、幼児一人一人に寄り添った保育をめざしていこうと考えた。そして、研究主題を「自分の大切さとともに、他者の大切さを認めることができる子どもの育成」～幼児一人一人に寄り添った保育をめざして～にし、研究を進めることにした。

また本園は、平成27・28年度に徳島県教育委員会人権教育研究指定を受けている。研究主題を「仲間との豊かなかかわりを通して、共に支え合い、たくましく生きる子どもの育成をめざす人権教育の推進」として研究に取り組んでいる。

### 2 研究の目的

- (1) 幼児理解を深め、幼児一人一人に寄り添った保育をするために、日々の保育を振り返り、自分自身の保育の在り方を探る。
- (2) 幼児が自尊感情を高め、自他ともに大切にすることができるようになるためには、どのような援助が必要かを考える。

### 3 研究の方法

2年保育4歳児ばら組6名の園児を中心に、5歳児ゆり組19名とのかかわりとともに、日々の保育記録をもとに、子どもたちの姿や保育者の援助等を振り返り、一人一人に寄り添った保育の在り方や自他ともに認めることができる園児の育成についての研究に取り組む。

### 4 実践と考察

<事例1> 「頑張れ！頑張れ！！」 5月下旬

園庭でダンゴムシやバッタを捕まえてきた子どもたちが「飼いたい」と言うので、飼うためには世話が必要だということを伝えるために、絵本「あかちゃんてね」（星川ひろ子、星川治雄 作）を読んだ。そして、「幼稚園にも赤ちゃんがいるんだよ」と、私が言うと興味津々な子どもたちに、玄関にツバメが作った巣を見せた。そのまま、しばらく親鳥が赤ちゃんにエサをあげるところを見守った。

数日後、玄関でツバメの巣を見上げるR子。親鳥が勢いよく巣のところに飛んでくると「うわあっ！」と言って大喜びする。そして、赤ちゃんにエサをあげているのを見て「先生、はやく来て！お母さんが赤ちゃんにご飯あげてるで！」と私に知らせに来てくれる。しばらく2人で見ていると、R子が「赤ちゃんが、ピーピーってお母さんのこと呼んでるなあ」とつぶやき、「ことりはとってもうたがすき～」と口ずさむ。私はその歌声に合わせて「かあさんよぶのもうたでよぶ～」と歌うと、R子が振り向き、少し照れたように笑う。2人で一緒に赤ちゃんの方に向かって「ピチクリピッ」と続きを歌った。

それからしばらくたったある日、R子が「先生！ツバメの赤ちゃんが巣から出て飛ぼうとしとるよ！」

と嬉しそうに言うので、クラスの子どもたちみんなで急いで玄関まで行き、巣を見上げる。すると巣から出てきた一羽の雛が壁にくっついたまま、羽を動かしている。「飛び立つ練習をしよるんかなあ」と私が言うと、静かにその様子を見つめる子どもたち。「頑張れ」R子がぼつりとつぶやいた。「頑張れー」「頑張れ！」子どもたちが次々に声を出し、次第にその声が重なっていく。「頑張れ！頑張れ！」6人の声が一斉にかけ声となり響く。その声を聞いた年長組の子どもたちもやってきて、雛の様子に気づくと、「頑張れ！頑張れ！」の大声援となった。

<省察>

- 私がこの「あかちゃんてね」という絵本を選んで読んだ理由は、この絵本は赤ちゃんの成長していく姿が写真で載っており、それをお姉さんの視点で見守る言葉で読んでいくことができるからである。そして、子どもたちが興味を持っている虫などの小さな生き物にも命があり、赤ちゃんのようにお世話をしてあげて欲しいという思いがあったからだ。また、実際に「命の成長」の場面にふれてほしいと思い、絵本を読んだ後にツバメの親子の様子が観察できるようにした。
- 特にR子は、ツバメの親子に興味を示し、それから毎日のように観察する姿が見られた。そして、その様子を何度も私に知らせに来てくれた。ツバメの様子を見守りながら「ことりのうた」を口ずさむ姿に、R子がツバメの親子からイメージを膨らませ様々な思いをはせていることが感じられ、あたたかい気持ちになった。その気持ちに共感したいと思った私は、一緒に口ずさむことで、R子のツバメの親子に対する思いに共感できたような気がした。
- ツバメを毎日のように観察していたR子は、少しずつ雛に感情移入していたのではないだろうか。雛が飛び立とうとしているところを見つけたR子の目は輝きに満ちていた。そして、「頑張れ」という言葉は、そういったR子の思いが自然にこぼれ出たように感じた。それに感化し、子どもたちが声をそろえて応援する姿に、一人一人の喜びや優しさを感じることができ、私はとても感動した。このような体験が、生きている物への温かな感情を芽生えさせ、生命を大切にしようとする心を育む大きな機会となるのではないかと再認識した。



<事例2> 「すごいだろ？」 7月上旬

プールから上がった私が、先にプールから上がり保育室に入って行ったばら組の子どもたちの様子を見に行くと、全員が自分で着替えをすることができている。そこにY支援員が来て「先生、ばら組さん自分たちでちゃんとお着替えできててすごいよねえ」と言い、それを聞いたY男が「先生！Y男が一番にお着替えできたんで！すごいだろ？」と嬉しそうに私に知らせる。「すごい、Y男くん！みんなもちゃんとお着替えできて、びっくりした！」と言うと「よっしゃ！」とY男は上機嫌。「じゃあ、ゆり組さん今プールから出たことやけん、今日は給食の机の用意、ばら組さんにもお願いしてもいい？」と言うと「する、するー！」と全員が声をそろえる。「じゃあ、お手伝いお願いします」の

Y支援員の声に子どもたちは、はりきってついて行く。しばらくして様子を見に行くと、給食の机がきれいに並べられている。子どもたちが「先生！ばら組さんみんなとY先生だけでお机用意したんで」と嬉しそうに私のところに駆け寄ってくる。Y支援員が「みんなすごく頑張って机運んでくれたんですよ」と教えてくれ、それを聞いた子どもたちは嬉しそうに笑う。「Y男くんもすごくはりきって頑張ってたんだよ。なあY男くん」とY支援員が言うと、「Y男、頑張ったんで！すごいだろ？」とY男の顔は自信に満ち溢れていた。

#### <省察>

- Y男は、素直で発想豊かな子どもらしいところがある一方で、自分の思いを強引にとおそうとするところがあり、思い通りにいかないと友達を叩いたり、乱暴な言葉を使ったりとそういった行動がととても目立っていた。そのため、私は一日に何度もY男を怒ることが続き、対応の仕方に悩んでいた。
- ばら組の子どもたちと過ごすなかで、褒められると素直に喜び、一段と頑張ることができると少しずつわかってきた。この日もテキパキと着替えをする姿から、Y支援員が子どもたちのやる気が引き出せるよう言葉をかけてくれていたことがわかった。特にY男は、褒められたことと一番に用意ができたことでとても満足気であったので、このやる気をさらに高めるために、給食の用意をばら組の子どもたちに提案してみた。そうすると、いつも、ゆり組の子どもたちがしていることを任せられたことが嬉しかったようで、子どもたちはとてもはりきっていた。
- 机を用意しに行くY男の姿はこれまでにないほど積極的で、お手伝いすることに喜びを感じているようであった。そして、Y支援員に褒められ自信に満ちあふれたY男の表情を見たとき、私は、Y男の良いところや頑張りをきちんと褒めていただろうかと振り返った。Y男の気になる行動に対する対応ばかりを考え、Y男自身の頑張りを成長を見守ることができていなかったと反省した。これからは、子どもたちが自己発揮し、教師や周りの友達に認められる体験をすることで、充実感や満足感を味わえるようにすることが大切であると痛感した。

#### 5 おわりに

今回の研究をとおして、幼児一人一人とのかかわりを深めていくなかで、第一の研究目的である、幼児一人一人に寄り添った保育の在り方については、幼児一人一人の言動にはその子なりの思いや考えがあり、それを受けとめ、その思いに寄り添っていくためには、まずは先入観をもたず幼児の心情を捉え、幼児の内面を理解していくことが大切であるということ学んだ。

さらに、教師が幼児の内面理解をするということは、日常的な教師の見守りや言葉かけ、援助などのかかわり方と表裏一体のものであるということも再認識することができた。

また、第二の研究目的である、幼児が自尊感情を高め、自他ともに大切にすることができるために必要な援助については、まずは自分自身が深い幼児理解のもと、幼児一人一人を大切に思い、気持ちに寄り添いながら援助していくことの大切さを感じた。そして、その援助を受けることで幼児自身も自分が大切に思われているという実感をもつのではないかと考えた。

さらに、幼児は、自己発揮し達成感や満足感を得るような体験をすることによって、自分が認められることの安心感を得ることができる。そして、自信を持って行動できたことが友達のよさをも認められるようになっていく。つまり、このことこそ、自分の大切さとともに、他者の大切さを認めることができる子どもの育成へとつながっていくものであると気づいた。

最後に、以上の研究を通して学んだことを生かし、今後とも、より一層、幼児一人一人に寄り添った保育をめざし、自分自身の人権意識を高めながら日々の保育実践に取り組んでいきたい。

## 動きのおもしろさを味わい夢中で運動に取り組む児童の育成 ～ 器械運動や陸上運動、水泳への苦手意識を取り除く ～

加茂小学校 教諭 大西勇貴

### 1 はじめに

本校は全校児童263名の中規模校である。阿波加茂駅の南西側に位置し、周囲を住宅地や田畑に囲まれたのどかな環境にある。しかし、地域や通学路には、国道192号線をはじめとする交通量の多い道路や鉄道があり、安全面での配慮が必要な場所も多い。保護者をはじめ、地域の方々はあたたかく、学校行事には積極的に参加するなど、大変協力的である。また、コミュニティ・スクールとして、地域密着型の様々な取り組みを行っている。

本校児童は、素直で明るく伸び伸びと学校生活を送っている。体育科の学習では、見学児童も少なく、仲間とともに体を動かす楽しい時間を過ごしている。本校は平成24年度から2年間、「身体がうごく・みんなでうごく・心が動く体育学習」を研究主題として様々な実践に取り組んできた。そして、平成25年度に徳島県小学校体育科教育研究大会の指定校として研究発表を行った。その結果、「体育科の学習が好きだ」「運動することが楽しい」と答える児童が増え、研究の成果は表れたように感じている。だが、脱二極化までには至っておらず、さらなる研究を進めているところである。

### 2 児童の実態

体育科の学習を領域別に見てみると、6年生の児童は、ボール運動に関心・意欲が集中している傾向にある。昨年度の体育科で行ったハンドボールやティーボールでは、チームの強さや男女比などを自分たちで考えながらチーム分けをしたり、チーム内での自分の役割は何かということを考えたりしながら活動する姿が見られた。全員が必死になってボールを投げたり追いかけていたりしている状況から、一人ひとりが「我がこと」として運動に取り組んでいることがわかる。その反面、個人で行う器械運動や陸上運動、水泳などの領域に苦手意識を抱いている子も少なくない。その中でも特に苦手意識の割合が高い運動が跳び箱運動である。6年生44人に対してのアンケートでは、跳び箱運動が「好き」「わりと好き」と答えた児童が10人、「あまり好きではない」「好きではない」と答えた児童が34人という結果となった。「あまり好きではない」「好きではない」理由としては、「跳び箱から落ちそうで怖い」「跳び越せなかった時に痛い」「跳び越せないから」「楽しさがわからない」など精神面や技能面の意見が多かった。

### 3 主題設定の理由

器械運動や陸上運動、水泳は、個人差や経験差が顕著に表れる運動である。また、友達と競争する運動というように捉え方が偏っている児童が多いゆえに、達成感を味わうことができずに苦手意識だけが先行してしまう。そこで、単元の初めに、運動のもとになる動きをいくつか提示する。そこに動きのおもしろさを存分に味わえるような活動を入れていくことで、子どもたちが夢中で活動に取り組み、運動に対する苦手意識を軽減させることができるのではないかと考える。また、スモールステップの課題を設定することで、達成感を味わいやすくなり、運動の楽しさに気づけるのではないかと考え、本主題を設定した。

#### 4 研究実践

##### (1) 技のもとになる簡単な動きの提示例【跳び箱運動の場合】

- 「ふわっと」する感覚を味わう
  - ・助走をつけてセーフティーマットへ自由に跳ぶ
  - ・跳び箱の上からセーフティーマットへ跳ぶ
  - ・ステージの上からセーフティーマットへ跳ぶ など
- 「くるっと」回って着地する感覚を味わう
  - ・ステージの上で前転してセーフティーマットへ着地
  - ・ロールマットの上で前転して着地
  - ・重ねたマットの上で前転して着地 など

子どもたちは夢中でこれらの活動に取り組んでいた。授業後の感想にも44人全員が「楽しかった」「次の時間もやりたい」などと書いてあり、跳び箱運動の導入には効果的であるように感じた。その後も授業のウォーミングアップとして初めの5分ほどこれらの活動を取り入れるようにした。また、跳び箱運動の時間ではないが、水泳の学習で、プールをセーフティーマット代わりに使用して跳ぶ練習をするのも効果的であった。

##### (2) 練習の場の工夫

自分の課題に応じた場を選んで運動に取り組む際に、段階的に練習ができるように、いろいろな場を設定した。また、自分の課題に適した場がなければ新しい場をつくるように指示をした。これにより、課題が細分化され、「足の裏で跳び箱に乗るように跳ぶといけるよ」「大きく回れたよ」「ゴムに足があたって跳ねたよ」という言葉が飛び交うようになり、全ての児童が達成感を味わっていた。そして、練習に取り組む顔つきの変化も見られるようになった。

##### (3) 練習方法の工夫

子どもたちの関わりを重視するため、跳ぶ人は見てほしいポイントを伝え、見る人は、ケンステップの中に入り、その中で練習する人が意識しているポイントを見てあげてアドバイスができるようにした。自分の姿を見てみたいと言う児童にはデジカメなどのITC機器を活用し、動画で自分の技やフォームの確認ができるようにした。さらには、必要に応じてオノマトペを考えながら練習するように伝えた。これらの練習方法により、「○○さんが、手をもっと前についたら跳べると思うよと言ってくれた」「動画で自分の姿をみたら両手がばらばらだった」「トン・パーン・トンのリズムで跳んだら跳べた」などの感想があり、課題解決に向けて何をすればよいのかが明確化され、技の獲得へ向けて意欲的に活動できるようになった。これらの実践を陸上運動や水泳に応用して行ってみても同様の意識向上効果が見られた。



(4) 単元計画の例【6年 跳び箱運動】

時	子どもの活動	■主な学習内容 ・支援
1	<p><b>習得した技を確認する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開脚跳び</li> <li>・かかえこみ跳び</li> </ul>	<p>■運動に進んで取り組んでいる。</p> <p>■昨年度に習得した技の感覚を思いだし、その技の動きをすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティーマットなどを使用し、安心して技に取り組むことで、成功体験が多くできるようにする。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台上前転</li> </ul>	<p>■技のポイントを理解し、活動することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動画や図を使って技のポイントを提示する。</li> </ul>
3	<p><b>習得した技の完成度を高めたり、技を大きくしたりする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージを使って</li> <li>・セーフティーマットやマットを使って</li> <li>・跳び箱6段</li> <li>・跳び箱7段</li> </ul>	<p>■自分の動きから課題を知ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用して、自分の姿を確認できるようにする。</li> </ul> <p>■基本的な支持跳び越し技が安定してできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オノマトペを使って練習させる。</li> <li>・友達の動きからコツを見つけさせる。</li> <li>・ICT機器を活用して、自分の姿を確認できるようにする。</li> </ul>
4	<p>習得した技の動きをもとに発展技に挑戦する。</p>	<p>■安全に技の練習を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループで活動に取り組み、補助ができる体制を作る。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>首はねとび</li> <li>頭はねとび</li> <li>ハンドスプリング</li> </ul>	<p>■発展技を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オノマトペを使って練習させる。</li> <li>・友達の動きからコツを見つけさせる。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステージを使って</li> <li>・セーフティーマットを使って</li> <li>・マットを使って</li> <li>・壁や補助具を使って</li> <li>・2台の跳び箱を使って</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用して、自分の姿を確認できるようにする。</li> </ul>
7	<p>自他の成長を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の成長を認め合う</li> </ul>	<p>■自他の成長を認め、運動の楽しさを実感することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間の成長を確認できるように昨年度撮影した姿と今の姿を友達に見てもらう。</li> <li>・友達との関わりや場を工夫していくことが自らの成長につながったことに気付くようにする。</li> </ul>



## 5 成果と課題

新年度が始まった4月に取ったアンケートでは、器械運動では4分の3以上、陸上運動と水泳では半数以上が「あまり好きではない」「好きではない」と回答していた。この実践後に4月と同様のアンケートを取ってみると、「あまり好きではない」と回答した児童が数名いたが、「好きではない」と回答した児童は0人だった。「泳ぐことが楽しくなった」「陸上記録会で幅跳びに出たい」という言葉も多くの児童から聞くことができた。しかし、まだ運動に受け身の児童がいることも事実なので、今後も児童一人ひとりのニーズに合った教材や言葉かけを工夫するなど研鑽に励みたい。そして、「運動って楽しい」「体を動かしたい」と思える子どもを増やしていきたい。

## 6 おわりに

今年1年、体育科を中心に、学習することは「おもしろい」「楽しい」と子どもたちが思い、主体的・意欲的に取り組むことができるよう研究を進めてきた。基本的なことはどの教科でも同じで、子どもたち一人ひとりをしっかりから見取り、「どこでつまづいているのか」「何を必要としているのか」ということを確実に把握し、手立てを考えて支援する。そうすることで、子どもたちのやる気を引き出すことができ、学級の雰囲気も高まっていく。一つのことが上手くいくと、他のことも「やってみよう」と挑戦するようになり、最終的に最高学年としての自覚と責任を果たすことにもつながってきたように感じる。今後も、本年度の研究を土台とし、課題を改善しながらより実践的なものへと進化させていきたい。

西井川の人，自然，文化と関わりながら，  
地域の一員としての自覚を育てる総合的な学習の時間

三好市立西井川小学校 教諭 藤川美香

## 1 研究の主題について

本校は三好市の北端中央に位置する全校70人の小規模校である。家庭科や図画工作科など実技教科の学習サポートや絵本の読み聞かせ，下校指導など，地域の方が児童の教育の一助を担う学校支援ボランティア体制が根付いている。また地域の高齢者が指導者となり，児童に地域の特色を生かした様々な文化（木工・調理・伝承遊び・地域芸能）を指導する三世代交流学習会を毎年行っており，地域の人々や文化に関わる機会も多い。しかし，児童に西井川のすばらしいところやよさをイメージマップで考えさせたところ，「美しい自然」や「Xパーク」を挙げるなど，ふるさと西井川に漠然としたイメージしかもっていないということが分かった。また児童が自ら進んで地域と関わったり自分と地域との関わりを考えたりする経験も少ないように感じられた。

その背景には，地域と関わる機会があるにもかかわらず，児童が地域の人々の思いや願いに気づいていないこと，地域学習における学びを自分のこととして捉えられていないことなどが考えられる。

本研究では，児童が地域のよさに気づくとともに，自分たちにもできることがあるんだといった地域の一員としての自覚をもち，進んで地域に関わろうとする態度を育てるための方策について考えていきたい。なお，研究にあたっては，西井川小5年生の3年間の実践について，いくつかの視点を定めて比較検討を行うことにする。

## 2 研究の内容と方法

### (1) 研究の視点

- ・研究の視点① 地域の人々との関わりの中で，人々の思いや願いを受け止められる場の設定
- ・研究の視点② 実物に触れたり，実際に行ったりするなど直接体験の重視
- ・研究の視点③ 他者と協同して取り組む学習活動

### (2) 比較検討を行う学習活動

年度「テーマ」	視点①思いに気づく場	視点②直接体験の場	視点③協同的な学習の場
平成25年度 ・地域と自分との関わりを実感する「西井川の達人に学ぼう」の実践	・木工の達人，裁縫の達人，料理の達人の方との交流	・達人へのプレゼント作り	・おもてなし集会 ・三世代交流学習発表会
平成26年度 ・地域の自然を実感する「西井川の特産品を作ろう」の実践	・木工の達人，裁縫の達人，料理の達人の方との交流	・西井川の特産品作り	・三世代交流学習発表会

平成 27 年度 ・地域の文化伝統を実感する「西井川の伝説を調べよう」の実践	・地域の伝統や文化とその継承・発展に力を注ぐ方との交流	・蛇岩, 大山祇神社フィールドワーク ・蛇岩伝説の紙芝居作り ・大山祇神社伝説のアニメーション作り	・幼稚園児への読み聞かせ ・三世代交流学習発表会
---	-----------------------------	---	-----------------------------

### (3) 研究方法

第5学年において3年間、扱う題材や学習方法を変えて実践した学習活動について、「人の関わりの中で学ぶ」「直接体験する」「協同的に取り組む」の三つの視点で比較分析、評価する。

## 3 実践

### (1) H25 年度「西井川の達人に学ぼう」

学 期	単元指導計画（概略）	研究の視点と学習活動
1 学期	・西井川のすごい人を調べよう ・木工達人, 裁縫達人, 料理達人に学ぼう	① 実習, インタビュー
2 学期	・達人に学んだことを生かそう（プレゼント作り） ・「おもてなし集会」を開こう	② 製作活動 ③ 集会の企画, 運営, 振り返り
3 学期	・三世代交流学習発表会を成功させよう	③ 発表会の企画, 準備, 振り返り

### (2) H26 年度「西井川の特産品を作ろう」

学 期	単元指導計画（概略）	研究の視点と学習活動
1 学期	・木工達人, 裁縫達人, 料理達人に学ぼう I	① 実習
2 学期	・西井川の達人に学ぼう II（特産品作り）	② 製作活動 ③ 特産品の開発
3 学期	・三世代交流学習発表会を成功させよう ・三世代交流学習発表会でプレゼントしよう	③ 発表会の企画, 準備, 振り返り

### (3) H27 年度「西井川の伝説を調べよう」

学 期	単元指導計画（概略）	研究の視点と学習活動
1 学期	・西井川の伝説を調べよう I ・紙芝居の読み聞かせを成功させよう	① インタビュー ② フィールドワーク体験 ② 製作活動 ③ 読み聞かせの準備・振り返り
2 学期	・西井川の伝説を調べよう II ・アニメーション作りに挑戦しよう	① インタビュー ② フィールドワーク体験 ② 製作活動
3 学期	・三世代交流学習発表会を成功させよう	③ 発表会の企画, 準備, 振り返り

写真①



写真②



写真③



※写真①・・・H25 年度「おもてなし集会」

※写真②・・・H26 年度「西井川特産品作り」

※写真③・・・H27 年度「大山祇神社物語  
アニメーション シナリオ作り」

#### 4 成果と課題 (○成果 ▲課題)

##### (1) 視点①

「地域の人々との関わりのなかで、人々の思いや願いを受け止められる場の設定」について

- どの年度においても、自分の生活や成長を支え見守ってくれている地域の人々の存在に気づき、感謝の気持ちをもつことができた。
- H25 年度は、地域の人々の生き方に触発され、自分も将来、何らかのボランティア活動をしたという気持ちを抱いた児童が多くいた。題材や学習方法が地域の人から直接学ぶ内容であったので、思いや願いもストレートに児童に伝わったのではないかと考えられる。
- H27 年度は、関わる人材の人数は少なかったが、一緒に現地フィールドワークをするなど、学習に深く関わってもらった。地域人材との関わりは、人数や回数よりも時間にゆとりをもって共に活動する方が効果的であることが分かった。
- ▲ どの年度においても、インタビュー、フィールドワーク、実習などゲストティーチャーとの様々な交流の場を設定したが、交流後の振り返りのもち方によっても、思いや願いの児童への伝わり方は異なるようである。今回は、その比較検討ができなかった。

##### (2) 視点② 「実物に触れたり、実際に行ったりするなど直接体験の重視」について

- H26 年度は、特産品作りという児童の興味関心が強い活動だったため、地域に関わる喜びを実感することができた。また、児童にとっては結構難しいテーマだったことも功を奏したと思われる。

▲ H26年度は、校外学習時間や学習をサポートする教職員の人数確保が難しかったため、特産品の開発にあたり、地域に出向き西井川の自然環境や特色などを調べたり、特産品作りに携わっている人々と交流したりする機会を多くもつことができなかった。そのため、地域のよさを十分に生かした特産品の開発には至らず、地域のよさを児童に感じ取らせる面が弱くなった。

○ H27年度は、児童が目的意識をもって現地フィールドワークに参加したり、題材を地域の人から直接学んだりすることで、地域の人々の西井川を大切にしている気持ちは、先人から受け継がれてきたということが児童にストレートに伝わったと考える。

(3) 視点③ 「他者と協同して取り組む学習活動」について

○ どの年度においても、個人の学習では感じられない成就感や達成感などを味わうことができた。

○ 特にH27年度のアニメーションのシナリオ作りにおいては、ペア学習での教え合いやホワイトボードを活用しての話し合いの手法を導入したことにより、みんなで協力して練り上げ、それを共有する活動がスムーズに行うことができた。

(4) まとめ

本研究を通して、地域の一員としての自覚をもたせるためには、次のようなことが必要であると考えられる。

- ・ゲストティーチャーとの関わりでは、人数や回数よりも関わり方や学びの質に大きな影響を受ける。
- ・体験においては、行って・見て・感じるなどの直接体験が最も有効である。また、児童にとって少し難しい課題を与えた方が成就感や達成感が得られる。
- ・協同的な学習においては、思考ツールを使ったり学習形態を工夫したりした方が、みんなで創り上げたという実感をもたせやすい。

## 5 おわりに

自分の生活や成長を支え見守ってくれている地域や地域の人々のために、地域の一員として何ができるのか考え実践する児童、すなわち、主体的に地域に関わろうとする児童を育てるためには、まず地域のよさを児童に実感させ、それをその後の学習にどう生かしていくかが大切であるということが本研究を通して分かった。今後は総合的な学習の時間だけにとどまらず、教育活動全体を通じて、地域の人、自然、社会、文化に関わる機会を多くつくっていきたいと考える。

# 自分の思いを豊かに表現できる子どもの育成を目指して

～ 体験活動を取り入れた言語活動の充実を図る指導を通して～

箸蔵小学校 教諭 新藤茂美

## 1 はじめに

本校は、徳島県の西部に位置し、こんぴら奥の院として知られる箸蔵寺の山麓、鮎苦谷川のほとりの自然豊かな地域にある。児童数は66名で、全体的に明るく素直で、何事にもまじめに取り組んでいる。また、校区には障害者自立支援施設や老人福祉施設等があり、地域のボランティア団体とともに「箸蔵福祉村」として、地域のつながりを深める様々な活動を行っており、本校児童も温かく見守られながら生活している。

本校では、学校の教育活動の中でこれらの諸施設や地域のボランティア団体の方たちとの交流を図り、様々な体験活動を行っている。また、近くにある池田支援学校とは、年間を通して各学年が計画的に様々な形態で交流をしている。これらの活動によって、児童はいろいろな人たちとふれ合い、豊かな感性を育てている。

そこで、活動や体験の中で人や自然と関わって得られた気づきを言語で表現することで、学んだことや考えたことに対する認識を一層深めさせたい。さらに、それらを伝え合うことで友だちの思いを知り、よりよい人間関係を築かせていきたいと考え、本主題を設定した。

## 2 研究の目的

本学級の児童は、1年生11名である。入学式の翌日から休み時間になると教室を離れて、校舎内のあちこちへ遊びに出かけ、他の学年の児童に声をかけるなど活発に活動する児童が多い。しかし、授業中に発表するときには声が小さくなったり、なかなか自分の考えを伝えられなかったりすることもある。また、少人数の仲間の中で生活しているため、言葉で伝え合わなくても、相手の状況を察して理解し合っていることもある。

そこで、児童が自分の思いや考えを表現できる場面を授業の中に意図的に設定していく。また、いろいろな体験活動を取り入れ、児童がその中で感じ取ったことなどを主体的に伝え合う機会も設けていく。それらによって、児童は自分の思いを豊かに表現できるようになると考え、実践することにした。

## 3 実践例

### (1) 日常の取組から～話して伝えよう～

入学して間もなくから、朝の会の「できごとタイム」や帰りの会の「ありがとうタイム」で、自分の経験したことを伝え合う時間を設けている。

「できごとタイム」では、下校後に児童クラブや家庭であったできごとについて、みんなに知らせたいことを発表している。家庭でのできごとは、友だちと活動を共有していないできごとであるため、自分の経験を聞き手に分かりやすく表現する必要がある。児童にとって、話す順序を考えたり、接続語を入れて話したりする機会となっている。

また、「ありがとうタイム」では、1日を振り返って友だちと遊んで楽しかったこと

や、友だちとの関わりの中でうれしかったことなどを伝え合っている。回数を重ねることで、友だちに手助けしてもらったことや、ほめてもらってうれしかったことなど発表する内容に広がりが出てきた。友だちの発表の中に自分の名前が登場すると笑顔になる児童もあり、温かい人間関係を築くための一歩となっている。

(2) 授業における取組から

①生活科における実践

1学期に生活科で「みずやつちであそぼう」の単元を行った。児童はスコップでトンネルを掘ったり、水を流したりしながら思い思いにダイナミックに遊ぶ体験をした。活動の中では、友だちと声をかけ合うことで新たな発想が生まれた。また、活動後には、楽しかったことを友だちに発表することで、自分のがんばりを紹介したり友だちのよさに気付いたりすることができた。授業の中にこのような言語活動を取り入れることで、気付きの価値付けをしたり、一人の気付きをみんなで共有したりすることができた。

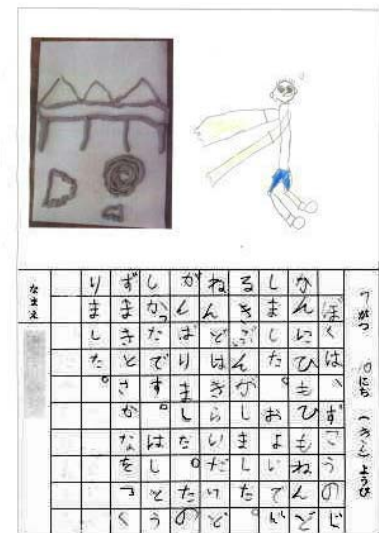


この生活科での体験活動を関連付けさせて、国語の「こんなことしたよ」の単元で、ひとまとまりの文章を書いた。短いながらも文章を書くという活動は、児童にとってこの単元が初めてとなる。学習に際して、自分の経験したことを家の人に文章で伝えるという目的意識を持たせるようにした。それにより書く意欲が高まり、楽しかったことを進んで書くことができた。後日、参観日にはその文章を一人ずつ発表し、家の人に聞いてもらうことができた。

	い	み	う	じ			5/26
	ご	ず	を	か	ぼ		なまえ
	か	で	し	ん	く		
	し		ま	に	は		
	ま	ぼ	し				
	し	う	た	み	せ		
	た	て		ず	い		
			う	ふ	て	か	
				ね		つ	
			て	を	ぼ	の	

②図工科における実践

6月には図工科「ひもひもねんど」の単元で、粘土を長いひも状にしたものを組み合わせて、作品をつくる活動を行った。様々な太さや長さのひもを身近にあるものに見立てて「木の枝がいっぱいできたい。」「長いへびができたよ。」などと話しながら作品づくりに取り組んだ。そして、1枚の絵のような作品に仕上げていき、できたものを担任に見せながら、うれしそうに自分の作品のイメージを語っていた。作品が完成した後に言語活動として、自分の作品について紹介したり感想を伝え合ったりする時間を確保した。友だちの説明を聞くことで、作品に対する見方や感じ方を深めたり、作品のおもしろさに気付いたりすることができた。



	り	ず	し	か	ね	る	し	か			
	ま	ま	か	し	ん	き	ま	ん	ほ		う
	し	き	た	ほ	ぶ	し	た	ひ	は		
	た	と	で	り	ん	た	ひ	は			
		さ	ず	ま	き	が	ち	す			
		か	し	ら	し	お	ひ	す			
		な	は	を	い	ま	よ	も			
		を	し	た	し	い	ね	う			
		こ	と	た	た	て	ん	の			
		く	う	の	ど	い	ど	ど			

さらに国語科の時間には、作品づくりをした時の様子を文章で書き表す学習を行った。その際には、絵日記形式の用紙に児童一人一人の作品の写真を貼り付けた。自分の作品

を見ることで活動を想起しやすくなり、作品づくりをしている時に感じたことなどを書き表すことができた。

### (3) 地域との交流における取組から

#### ①三好高校との交流

1・2年生が幼稚園児と一緒に、三好高校生に教えてもらいながら、6月にはいも苗の植え付けを行い、秋にはいも掘りを行っている。様々な校種と交流を深めながら栽培活動を行うことで、豊かな心を培うことを目的としている。



これらの体験活動の後には、高校生へお礼の手紙を書いている。1年生にとっていも苗の植え付け時期は、ひらがなを学習し終えたばかりの頃であり、文章で表現することは難しい段階である。しかし、手紙でお礼の気持ちを伝えるという設定をすることで、児童は体験活動で感じたことを自分なりに文章で書いたり、絵で表現したりして自分の思いを伝えることができた。そして、秋の芋掘りの時期になると、文章で表現する力も付いてきて、芋を掘ったときに感じたことなども付け加えて書くことができ、手紙の内容も豊かなものとなった。

#### ②高齢者施設との交流

10月には、幼稚園児とともに地域にある高齢者施設「秋田ハーモニー」を訪れ、高齢者、障害のある人など多様な人たちと触れ合う機会を持った。この活動により、学校生活の中では関わることのできない人たちと出会い、相手の気持ちを考えながら人と関わる力を高めることができると考える。

施設を訪問するに当たって、国語科で学習する「サラダでげんき」の単元構成の中に、単元を貫く言語活動として音読劇を取り上げ、交流した際に発表するという目的意識を持たせて取り組んだ。

児童は日頃から授業や宿題などで音読に親しんでいるが、文字を追うだけの音読に留まっていることが多い。そこで、登場人物の気持ちや場面の様子を想像する学習を通して、学んだことを生かした音読になるよう、抑揚をつけたり高齢者の方を意識してはっきりとした口調で読んだりできるよう練習し、披露した。また、その経験を国語科の「おもい出してかこう」の単元に関連付けさせ、作文に書く活動につなげることができた。



## 4 おわりに

児童は、様々な体験活動を行うことで、驚きや楽しさを感じたり、考えを深めたりしている。1年生にとって、自分の思いを話したり文章に記したりすることは難しいことであるが、機会を捉え、様々な表現方法を提示して取り組ませていくことで、表現する力が豊かになると感じた。今後も、自分の思いを豊かに表現できる子どもの育成をめざして、様々な授業の中で言語活動を取り入れていきたい。



# 自ら学び、たくましく生きる「あわしっ子」の育成 ～少人数の強みを生かした教育の実践を通して～

吾橋小学校教諭 長岡鷹太

## 1 はじめに

本校は三好市西祖谷山村の山間部に位置し、全校児童10人の小規模校である。また、本校の3学級のうち2学級は、複式学級である。地域は少子高齢化が進んでおり、児童数は今後さらに減少していく見込みである。PTAや地域住民は学校に対して非常に協力的で、学校行事等で一緒に活動する機会も多い。本年度からは、県教委より小中一貫教育推進事業（チェーンスクール）の指定を受け、西祖谷地区の櫛生小学校、西祖谷中学校と、合同授業や行事を行っている。

## 2 研究の目的と方法

本校の児童は、素直であり、自然豊かで落ち着いた学習環境の中でのびのびと生活している。また、自分の仕事を責任をもって行う姿が見られる。しかし、自分から主体的に自分のすべきことを考えて行動できる児童は少ない。また、少人数ゆえに児童の人間関係が固定してしまいがちであり、同学年の児童が少ないため、学習や運動面での競争心や向上心が育ちにくい。多くの友達の中で活動する機会が少ないため、自分の意見を伝えることに苦手意識がある児童もあり、話し合いの場面ではなかなか意見が深まらないといった課題がある。

これらの課題をふまえ、本実践で目指す子どもの姿を次のように設定した。

**多様な環境や人間関係の中で、主体的に学び、たくましく生きようとする子ども**

少人数の強みを最大限に生かした、本校ならではの取組を行うことで、自ら学び、たくましく生きる「あわしっ子」の育成を目指していく。

## 3 実践内容

### (1) 学級での取組

- ・相手を意識した音読・スピーチ

教科書を読む際には、読み手と聞き手に分かれ、相手意識をもった音読を心がけている。また、友達の音読の良いところを伝え合う活動も行っている。毎日のスピーチでは、一日の出来事や感想などを伝え合っている。相手を意識しながら声を出す活動を毎日続ける中で、相手が聞き取りやすい声で発表することを目指している。



- ・複式授業の研究

3・4年生で国語の授業研究を行い、複式の授業について研修を行った。教師が直接指導をしていない時の間接指導の効果的な方法などについて教員間で話し合いをし、エドバイザーの中谷先生のご助言を頂きながら、複式学級での指導について学びを深めた。

## (2) 学校での取組

### ・七夕集会

保護者や地域の方々を招き行った七夕集会では、3年生以上の児童が、司会やゲームの説明など、それぞれの役割をもって運営を行った。全校での歌や体操の発表を、高学年が低学年を気遣いながら、協力して行う姿が見られた。

### ・校区訪問

地域住民への校区訪問を、毎年、春と秋の2回行っている。地域の方々のお家に出向き、七夕集会や学習発表会の案内や、花の苗のプレゼントなどを行っている。地域の方々には高齢者が多く、校区訪問を通して、児童は多様な人々との関わり方について学んでいる。

### ・全校遊び

本校では毎週木曜日、昼休みの時間を延長し、併設する幼稚園の園児も参加して全校で同じ遊びを行っている。チームに分かれて作戦を話し合ったり、学年によって差が出ないようなルールを決めたりするなど、楽しくコミュニケーションを図りながら、仲良く遊んでいる。

### ・行事の際の感想発表

全校での行事や学習の最後には、児童が感想を言う機会を設けている。自分が感想を述べた後は手を挙げている友達を指名し、次々と感想を述べていく。自分の意見の理由も合わせて話す高学年の姿が、低学年の児童の良いお手本となっている。毎回多くの児童が感想発表をし、人前で話す自信につながっている。



## (3) 西祖谷チェーンスクールの取組

### ・榎生小学校との合同授業

榎生小学校との合同授業では、各学年で同じ活動を行った。普段とは違う集団の中で積極的にコミュニケーションを図る姿が見られ、児童の人間関係の幅の広がりを感じることができた。児童の感想にも、「友達が増えてうれしかった」「いつもよりたくさん発表ができた」とあった。

### ・合同体力テスト・共同学力テスト

本校では毎年、榎生小学校と合同で体力テストを行っている。また、学力向上の取組として、教員間で連携して国語と算数の問題を作成し、両小学校共通の学力テストを行った。他校の同学年の児童を意識し、自分の体力や学力を客観的にとらえることのできる良い機会になった。体力テストについては、来年度は小中合同で実施する予定である。



- ・西祖谷中学校運動会への参加

中学校の運動会に櫛生小学校と参加し、中学生と合同で活動を行った。6年生の児童の感想には、「中学生の姿を見て来年の自分の動きがわかった」とあり、低学年の児童の感想にも、「大勢で運動会ができて楽しかった」「中学生がやさしく教えてくれた」とあった。異学年や中学生との交流により、児童の自主性の向上や人間関係の広がりが見られた。



## 4 成果と課題

### 成果

- ・異学年集団での関わりの中で、高学年も低学年も協力しながら活動を行っていた。低学年の時から役割をもって学校行事等に参加できることは大変意義がある。また、高学年の姿をみることで、大きくなった自分の役割に見通しをもつことができたのではないかな。
- ・チェーンスクールでの他校の子どもとの関わりが、児童の人間関係の広がりにつながった。
- ・少人数ゆえに、児童ひとりひとりの発表の機会や活躍の場が他の学校より多く設けることができた。場数をふむことが児童の自信につながり、「もっとやってみたい」「今度はこうしたい」という自主性につながった。

### 課題

- ・児童集会や全校集会などの活動内容は教師の働きかけによるものが多かった、児童のアイデアをもっと取り入れることで、より自治的な活動ができるようにしたい。
- ・スカイプを使った交流学习など、ICTをさらに活用することで、他校との交流がより日常的に、気軽にできるようにしたい。
- ・交流学习の場で人数が増えると、児童の話し合いの内容がより深まった。少人数で行う日々の授業の中でも、このような言語活動ができるように工夫していく必要がある。
- ・心身ともにたくましい児童を育てるために、学力面、体力面のさらなるアップにつながるような活動を常時取り入れていく必要がある。

## 5 終わりに

今回の実践を通して、日常的に異学年で活動ができることや、自分の意見を発表する機会が多くもてることが、少人数の強みだと実感した。吾橋でしかできないこと、吾橋だからできるようになったことは、子どもたちにとって必ずプラスになり、ふるさとへの誇りにもつながると感じた。児童数はどんどん減少していくが、少人数ながらも活気のある、やる気に満ちた、たくましい子どもたちの育つ吾橋小学校にしていきたい。

# 「英語でおもてなし～O・Mo・Te・Na・Shi～」

西祖谷中学校 教諭 芳川 未弥

## 1 はじめに

西祖谷中学校は、1年生が7名、2年生が2名、3年生が3名の計12名の小規模校である。校区には祖谷川や大歩危峡があり、恵まれた環境の中、子どもたちは伸び伸びと育っている。その豊かな自然を大切にしようと、かずら橋の保全活動や美化活動を毎年行い、昨年度はその成果が認められ農林水産大臣賞をいただいた。ふるさとを大切に思う心を持ち、地域の人にも見守られ、自分自身がふるさとのために何ができるかを考えながら日々生活を送っている。

## 2 研究の目的

本校は、校区に徳島県有数の観光地であるかずら橋がある。年間約30万人が祖谷を訪れており、近年は日本からの観光客よりも海外からの観光客が目立っている。主に、台湾や香港そしてアメリカやカナダからの観光客が多い。子どもたちの中にも家が、旅館やホテルを営んでいるものが多く、日常生活の中で英語で尋ねられたり答えたりする場面が多々ある。しかし学校で習った英語をコミュニケーションの場で応用できなかつたり、speaking に対して自信がなかつたりと、この環境を十分に生かしきれていない実態があった。そこで「外に出れば、英語を使ってコミュニケーションができる」このような恵まれた環境を生かすために「英語でおもてなし」と称した授業を年間を通じて行うことにした。

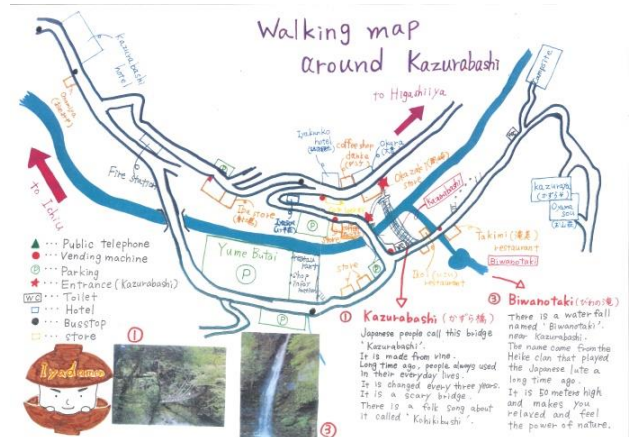
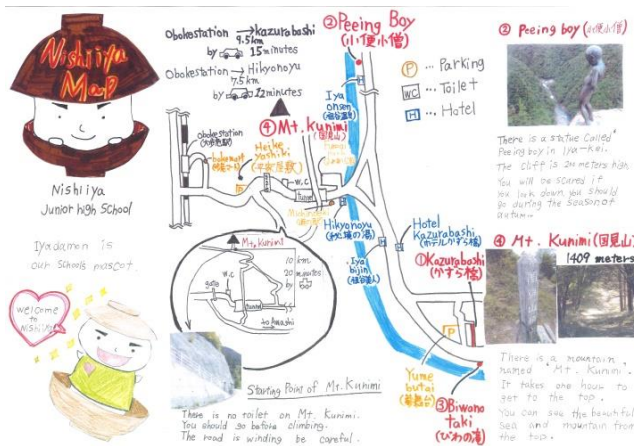
## 3 研究の方法

「英語でおもてなし」の活動内容は次の3つである。

①西祖谷中学校のマスコットである「イヤだもん」の缶バッジ作成と販売



②Nishiiya Map in English の作成と配布



③かずら橋ホテルで外国人観光客への客室案内



授業について

英語でおもてなし」という年間を通じたタスクを設けたので、英語の授業を「英語でおもてなし」の時に生かすことができるように関連づけた。

例えば、1年生の「命令文」では「かざら橋に英語の標識を作ろう」をゴールに掲げて取り組んだ。



#### 4 結果と考察

「英語でおもてなし」を6月6日、11月7日、11月17日に行った。

##### ① 6月6日



<缶バッジ販売>



<マップ配布>

##### ② 11月7日



<缶バッジ販売>



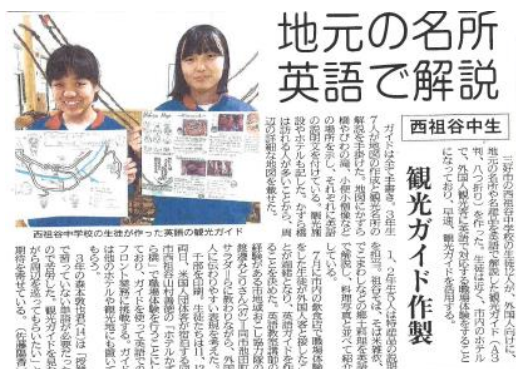
<マップ配布>

③ 11月17日

<ホテルかざら橋にて接客>



昨年度も取り組んでいることもあり、子どもたちは緊張しながらも積極的にコミュニケーションを取ろうと頑張っていた。何度もリハーサルを繰り返していたが、本番では授業で習っていない表現ももちろん理解しなければならない。そんな中でも、子どもたちは何とか伝えようと自分が知っている単語で言い換えたりジェスチャーを使ったりしてコミュニケーションをとっていた。徳島新聞でも何度か掲載していただいた。



## 5 おわりに

缶バッジを生徒と一緒にデザインすることから始まり、英語マップも生徒と一緒に地域を歩き、お店や旅館の方、地域の方はもちろん多くの方の協力を得て一步步準備をしていった。目的をもって地域をもう一度見直すことで、子どもたちはさらに地域のことを知ることができた。

実施する前は、学校で習っている英語を人とコミュニケーションをとる時に使えず、自信がなかった子どもたち。英語の勉強に対しても意欲がなく、目的がなく学習しているような状況であった。しかし「英語でおもてなし」を実施した後は、この恵まれた環境に気づき、授業以外でも自分から進んで英語で話しかけたり道案内をしたり「自分の英語を向上させよう」、「英語で人の役にたとう」とする意欲を持ち始めた。英語学習に対しても、はっきりとしたゴールがあるので家庭でも授業でも積極的に取り組むことができている。昨年度は全校生徒12名のうち英検準二級2名、三級2名、4級5名、5級2名という素晴らしい成果になって表れた。

「授業で習っている英語で、本当に人とコミュニケーションをとることができる。英語で人の役にたつことができる」と実感できる素晴らしい環境にあり、そして西祖谷でしかできない英語教育は、今後も間違いなく子どもたちの力を伸ばし、そして資質を向上させていると確信している。

主体的に学習に取り組む生徒の育成をめざして  
～関数の学習を通して～

東祖谷中学校教諭 岡田 祐佳

1 はじめに

数学の学習内容の中で、特に関数に対して苦手意識を持っているという生徒は少なくない。その理由の1つとして、関数の学習では、方程式までの形式的な計算だけでなく、様々な見方・考え方が必要とされることが考えられる。中学1年生の2学期で学習する関数でのつまづきをきっかけとして、数学の学習に対して消極的になる生徒もいる。その状況を改善するためには、関数の学習の導入で生徒が関心を持ち、主体的に取り組めるような授業を展開し、その後の学習も意欲的に進めていけるようにすることが必要である。

2 研究の目的と方法

本学級の生徒は数学の学習に対して意欲的で、授業でもよく発表している。しかし、少しずつ学習内容が難しくなり、不安を感じている生徒や、自分の考えをうまく言葉で表現できず、もどかしさを感じている生徒もいる。班活動で他の生徒の意見を聞いたり、自分の意見をわかりやすく表現し直してもらいながら、少しずつ理解を深めている。今後の学習においても、意識して話し合い活動を取り入れることで、生徒が学びあいながら学習を進められるようにしたい。

今回の実践では、単元「変化と対応」における「関数」の導入として、ブラックボックスや小物入れの箱づくりを通して、ともなって変わる2つの数量について考察する。比例や反比例に限らず、さまざまな2つのことばや数量の間にあるきまりを見つけることで、生徒が関数の概念の広がりを実感し、今後の学習を主体的に進めていけるようにしたい。

3 研究の実際

(1) 単元の目標

いろいろな事象の中から、ともなって変わる数量を見つけたり、表やグラフで変化のようすを調べたりすることができ、関数の意味と変域について理解することができる。

(2) 単元の評価規準

ア 数学への関心・意欲・態度	イ 数学的な見方や考え方	ウ 数学的な技能	エ 数量や図形などについての知識・理解
① 関数関係に関心をもち、その関係を表やグラフなどで表したり、変化や対応の様子を捉えたりしようとしている。	① 具体的な事象の中にある2つの数量の関係を表した表やグラフなどを基にして、変化や対応の様子を捉えることができる。	① 関数関係を、表やグラフなどで表すことができる。	① 関数関係の意味を理解している。 ② 変数と変域の意味を理解している。

(3) 指導計画 (3時間)

第1次 関数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3時間(本時1/3)

(4) 本時

① 本時の目標

- ・ 具体的な事象の中にある2つの数量の関係に関心を持ち、ともなって変わる数量を見つけようとすることができる。
- ・ ともなって変わる2つの数量の関係を表で表し、その特徴を見いだすことができる。

② 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価
5分	1 ブラックボックスを用いて、2つの言葉・数がどのような関係にあるかを考え、発表する。	・クイズ感覚でリラックスして取り組めるように配慮する。		
<p>課題：1辺が16 cmの正方形の四すみから同じ大きさの正方形を切り取り箱を作ります。切り取る正方形の1辺の長さを変えると、それにもなってどんな数量が変わるでしょうか。</p>				
20分	2 班に分かれ、実際に厚紙で箱を作り、切り取る正方形の1辺の長さにもなって変わる数量を見つける。 3 見つけた数量を班ごとに発表する。	・班で相談して、変わる数量をできるだけ多く見つけるよう指示する。	・アの① 具体的な事象の中にある2つの数量の関係に関心を持ち、ともなって変わる数量を見つけようとする ことができる。	ワークシート 机間指導
20分	4 ともなって変わる2つの数量について表を用いて考察し、気付いたことをまとめる。 5 班ごとに発表する。		・イの① ともなって変わる2つの数量の関係を表で表し、その特徴を見いだすことができる。	ワークシート 机間指導
5分	6 本時のまとめをする。	・ワークシートに、わかったことや感じたことを書かせる。		



#### 4 結果と考察

##### (1) 研究協議より

- ・ 生徒はブラックボックスに大変興味を持っており、カードに書かれた言葉のきまりを真剣に考えていた。関数の導入としては、ブラックボックスはとても良い教具だと感じた。
- ・ 実際につくった箱を観察することで、ともなって変わる数量を見つけやすくなった。
- ・ 班活動を取り入れることで、数学が苦手な生徒も自信を持って発表できていた。今回は時間がなく自力解決の時間を取れなかったが、班活動の前に自力解決の時間を取ればさらに考えが深まった。
- ・ 今回調べた2つの数量の関係は比例にも反比例にもならないので、きまりを見つけるのは難しそうだったが、生徒が粘り強く取り組んでおり、その結果階差数列を見つけていることができていたので驚いた。時間をかけて粘り強く取り組ませることの重要性を感じた。生徒も自分たちの力できまりを見つけることができたので喜んでいて。
- ・ ブラックボックスと箱づくりをそれぞれ1時間ずつに分けて授業を行えば、生徒の考える時間が増え、もっと理解が深まった。

② 2つの数量の関係について、表を使って調べましょう。

・ 切り取る正方形の1辺の長さ  
( ) の関係  
底面の面積

切り取る正方形の1辺の長さ (cm)	1	2	3	4	5	6	7
底面の面積 (cm <sup>2</sup> )	196	144	100	64	36	16	4

$-52$     $-44$     $-36$     $-28$     $-20$     $-12$   
 $-8$     $-8$     $-8$     $-8$     $-8$

・ 表から気付いたこと

1cm 切ると、たてとよこの長さが2cmずつ減っている  
 たんたんの面積が減っている

$8 \times 7 = 56$



##### (2) 授業後の生徒の感想

- ・ 最初はきまりがあまりないかなと思ったけど、チームのみんなで話し合っけきまりを見つけることができたのでよかったです。他のチームの考え方を知ることができてよかったです。
- ・ みんなの前で発表して、緊張したけど、うまく発表ができてよかったです。またこれからも発表していきたいです。
- ・ 私はきまりを見つけることができてよかったです。また、表を右から見たり左から見たりすることができたので考える力がつきました。小学校のときの勉強を生かしてできたのでよかったです。

#### 5 おわりに

今回の実践を通して、生徒たちの「できるようになりたい」「わかると楽しい」という思いを強く感じることができた。自分たちの力できまりを見つけたときの生徒の喜びに満ちた表情は忘れられない。授業をする際には、生徒は関数が苦手だからと決めつけるのではなく、生徒が興味を持ち、自分の力で学習を進めていけるように授業の展開を工夫することが大切であると考えます。今後もさらに研鑽を積み、生徒が学ぶ喜びを感じられるような授業ができるよう、日々の教育に取り組んでいきたい。

# 平成27年度の事業報告

## 1 研究主題

「未来を切り拓き、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」

## 2 事業

### (1) 調査研究関係

- ア 教育課程の研究とそれを踏まえた学級経営のあり方
- イ 言語活動の充実と図書館教育の研究
- ウ 情報教育についての研究
- エ 生徒指導にかかわる諸問題の調査研究
- オ 県内外の各研究所の研究内容の紹介
- カ 各種研究会への参加と研究物収集
- キ 購入図書・DVD等の紹介

### (2) 研究会等の開催・共催

- ア 研究推進協議会・運営委員会（研究課題についての研究協議）  
第1回 6月10日（水） 第2回 2月17日（水）

#### イ 情報教育研究会（情報教育部会と共催）

##### ◎夏季研修会

8月18日（火） 於：東みよし町中央公民館  
参加者35名 参加企業16社

##### ◎コンピュータ作品コンクール関係

10月23日（金）コンピュータ作品審査会（三好教育センター）  
10月31日（土）～11月1日（日）東みよし町祭りで展示  
11月21日（土）～23日（月）三好市民文化祭で展示

#### ウ 複式教育研究（へき地・複式部会と共催）

- ◎現場研修会 10月9日（金） 会場 政友小学校  
・5・6年生複式模範授業・講演会（政友小 野口幸司校長）  
国語科:5年生「注文の多い料理店」6年生「海の命」

#### エ 人権教育研究会（三好郡市学校人権教育研究大会）

11月11日（水）就学前・小学校分科会（於：辻小学校）  
11月10日（火）中学校分科会（於：三加茂中学校）  
11月26日（木）高等学校・特別支援学校分科会（池田高等学校）

#### オ 新任管理職研修

4月22日（水）、27日（月）、28日（火）（各校 参加者4名）  
・「学校事務について」 三好市事務グループ

#### カ 教頭・中堅教員勉強会（学校運営研修）

6月26日（金）・29日（月） 7月1日（水）・7日（火）・14日（火）  
27日・8月2日（土）

於：三好教育センター 参加者10～18名  
・講義①④ 倉本 淳一 教育長（三好市）

- ・講義② 小谷 千恵 事務室長（池田中）
- ・講義③⑥ 竹内 明裕 校長（池田中）
- ・講義⑤ 藤本 一夫 校長（三野中）

- ・論文ワークショップ①・② 教頭部会 藤本 慎二 校長(井川中)  
教諭部会 内田 典善 校長(西井川小)

※オ～カ

「三好教育振興協議会」との連携による事業

(3) 各種研究の委嘱

- ア 研究発表校
  - 箸蔵小学校 三野中学校
- イ 研究協力校(28年度発表)
  - 山城小学校 三好教育研究所
- ウ 委嘱研究員
  - ・幼稚園(第2ブロック) 辻幼稚園 真鍋 友子 教諭
  - ・小学校
    - 1区 加茂小 大西 勇貴 教諭
    - 2区 西井川小 藤川 美香 教諭
    - 3区 箸蔵小 新藤 茂美 教諭
    - 4区 吾橋小 長岡 鷹太 教諭
  - ・中学校
    - 3区 西祖谷中 芳川 未弥 教諭
    - 4区 東祖谷中 岡田 祐佳 教諭

### 3 研究の成果の発表及びその普及

ア 三好教育研究発表会

- 日時 平成27年8月20日(木) 12:50～16:40
- 会場 三好市池田総合体育館 サブアリーナ
- 参加人数 三好市・三好郡内教職員 280名  
教育研究所・三好教育会 5名  
来賓・その他 7名

○研究発表

- ・自分で気づき、考え、実行し、仲間とともに未来を生きぬく  
心豊かな子どもの育成  
～地域との交流を通してふるさとの魅力再発見～  
箸蔵小学校 発表者 藤原 隆司 教諭
- ・出会いをつなぎ、自己を見つめ、自他の人権を尊重する生き方を求めて  
～識字学級との交流を通して～  
三野中学校 発表者 尾形 君代 教諭
- 26年度委嘱研究員の研究主題を三好教育研究発表会要項に掲載

○講演

- 演題「生きる力を育む教育」  
講師 たんぼぼ教育研究所 所長 大崎 博澄 氏

イ 研究所報(第96号)と研究紀要(第56集)の発刊

- ◆各学校にCDにて配布
- ◆各研究機関にCD等の送付

ウ 研究員による研究報告(27年3月)

エ ホームページ等による広報活動

歴代委嘱研究員一覧(平成元年～) 幼稚園・小学校

年度	幼稚園	小学校				
	幼稚園	小学校1区	小学校2区	小学校3区	小学校4区	小学校5区
元	国見マチ子(絵堂幼)	藤本政義(王地小)	天竹勉(昼間小)	吉岡弘恵(池田小)	森勝正(河内小)	森本義博(櫟生小)
	斎藤光子(三野幼)	坂野町子(三庄小)	前川順子(辻小)	久保徹(箸蔵小)	小笠健二(大野小)	和田初枝(落合小)
2	国見マチ子(絵堂幼)	藤本政義(王地小)	天竹勉(昼間小)	吉岡弘恵(池田小)	森勝正(河内小)	森本義博(櫟生小)
	斎藤光子(三野幼)	坂野町子(三庄小)	前川順子(辻小)	久保徹(箸蔵小)	小笠健二(大野小)	和田初枝(落合小)
3	山口悦子(増川幼)	小笠松美(王地小)	藤野圭一(足代小)	武内隆史(出合小)	竹野啓治(大和小)	細川文男(櫟生小)
	横田嘉代子(昼間幼)	大瀧和彦(加茂小)	為実敬子(西井川小)	真鍋宏実(馬場小)	篠原聡(下名小)	松村直也(和田小)
4	佐々木隆子(東山幼)	大瀧和彦(加茂小)	為実敬子(西井川小)	武内隆史(出合小)	竹野啓治(大和小)	松村直也(和田小)
	井上淳子(足代幼)	小笠松美(王地小)	藤野圭一(足代小)	真鍋宏実(馬場小)	篠原聡(下名小)	細川文男(櫟生小)
5	岡久尚子(白地幼)	辻宏明(芝生小)	中川糸子(足代小)	坂本武彦(白地小)	田中敬子(上名小)	谷恒二(吾橋小)
	矢野聡子(出合幼)	田岡茂樹(加茂小)	齋藤孝(西井川小)	伊丹賢治(三縄小)	志磨昭子(大和小)	大塚一志(栃之瀬小)
6	岡久尚子(白地幼)	辻宏明(芝生小)	中川糸子(足代小)	坂本武彦(白地小)	志磨昭子(大和小)	大瀧和彦(吾橋小)
	矢野聡子(出合幼)	田岡茂樹(加茂小)	齋藤孝(西井川小)	伊丹賢治(三縄小)	田中敬子(上名小)	大塚一志(栃之瀬小)
7	大久保珠美(池田幼)	松田徳子(王地小)	真鍋宏実(昼間小)	中川法子(池田小)	井後辰哉(政友小)	濱口久弥(吾橋小)
	國金砂恵子(野呂内幼)	中川斉史(三庄小)	土井清子(井内小)	川人成子(三縄小)	峯川郁代(山城小)	森本誠司(落合小)
8	國金砂恵子(川崎幼)	松田徳子(王地小)	真鍋宏実(昼間小)	中川法子(池田小)	井後辰哉(政友小)	濱口久弥(吾橋小)
	大久保珠美(池田幼)	中川斉史(三庄小)	土井清子(井内小)	川人成子(三縄小)	峯川郁代(山城小)	森本誠司(落合小)
9	岡尾千恵(下名幼)	原敏二(三庄小)	中川貴史(昼間小)	篠原晃代(馬路小)	小笠原誠(平野小)	徳善之浩(名頃小)
10	木村恵美子(西岡幼)	野町孝英(芝生小)	石井文子(辻小)	島田晴代(野呂内小)	篠原義正(河内小)	岩崎順子(善徳小)
11	三木香代(西庄幼)	森北直樹(加茂小)	中村瑞穂(足代小)	山下史記(佐野小)	河野通之(大野小)	向井ひろみ(菅生小)
12	渡辺千枝(三野幼)	平田公彦(太刀野山小)	小角昌美(西井川小)	三好美智代(西山小)	谷口政代(下名小)	品川知美(櫟生小)
13	岡本久美(西井川幼)	三橋洋子(西庄小)	今川仁史(東山小)	生藤元(箸蔵小)	三橋泰(落合小)	
14	大西恒子(井内幼)	喜多とよみ(王地小)	細谷加代子(井内小)	近藤直美(池田小)	瀧下光子(西宇小)	
15	山中あけみ(箸蔵幼)	樋口隆則(絵堂小)	加藤公夫(昼間小)	近藤明美(三縄小)	松浦理恵(善徳小)	
16	新居利枝(馬路幼)	松代容子(芝生小)	福田ミカ(辻小)	松下寛興(白地小)	井上清隆(栃之瀬小)	
17	古井智恵子(善徳幼)	武田淳子(三庄小)	佐藤仁美(足代小)	向井ひろみ(馬路小)	山中祐二(大野小)	
18	谷本紀子(大野幼)	平尾佐知子(加茂小)	北川ひとみ(王地小)	渡邊真弓(川崎小)	岡本悟(櫟生小)	
19	佐藤重美(東山幼)	平野貴志(東山小)	豊田昌弘(西井川小)	木内晃(佐野小)	猪子研司(和田小)	
20	鳥首こずえ(加茂幼)	邊見明美(絵堂小)	井原理恵(芝生小)	宮本真吾(西山小)	河野恵子(山城小)	
21	大西照子(西井川幼)	和田光司(西庄小)	小角昌美(井内小)	中妻稔子(箸蔵小)	森祐大(吾橋小)	
22	釈子育香(井内幼)	森幸子(昼間小)	松本珠実(王地小)	永山睦子(池田小)	清重正俊(栃之瀬小)	
23	城尾春菜(池田幼)	小角聡志(加茂小)	平尾昌彦(辻小)	安藤久子(三縄小)	平岡千佳(政友小)	
24	元木真砂代(池田幼)	近藤博美(三庄小)	園尾淑子(芝生小)	神谷美樹(白地小)	岩崎真人(櫟生小)	
25	石井やよい(昼間幼)	大久保智江(足代小)	中瀧由紀(井内小)	石丸美穂(馬路小)	福田浩司(東祖谷小)	
26	田岡あけみ(三庄幼)	大西三千代(昼間小)	木村栄治(王地小)	濱本恭代(川崎小)	喜多芳恵(下名小)	
27	真鍋友子(辻幼)	大西勇貴(加茂小)	藤川美香(西井川小)	新藤茂美(箸蔵小)	長岡鷹太(吾橋小)	

歴代委嘱研究員一覧(平成元年～)

中学校

年度	中 学 校				
	中学校1区	中学校2区	中学校3区	中学校4区	中学校5区
元	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)
2	坂部栄子(三野中)	頭師正明(井川中)	小島治子(池田一中)	大畑知(大野中)	住友恵子(西祖谷中)
3	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	島本富美子(東祖谷中)
4	新居克佳(三加茂中)	嵯峨久明(三好中)	西岡ひとみ(池田中)	佐藤英一郎(山城中)	玉木富美子(東祖谷中)
5	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)
6	尾関英知(三野中)	井川秀樹(井川中)	入江宏明(池田一中)	西浦陽子(大野中)	三橋和博(西祖谷中)
7	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邊見隆史(東祖谷中)
8	上田尚(三野中)	元木康代(三好中)	村上義昭(池田中)	山田泰弘(山城中)	邊見隆史(東祖谷中)
9	三好康彦(三加茂中)	国友博司(井川中)	伊丹尚子(池田一中)	大西恭司(大野中)	島本清(西祖谷中)
10	青山貴幸(三野中)	上田美恵(三好中)	坂本浩江(池田中)	田村裕(山城中)	大谷一幸(東祖谷中)
11	平尾治美(三加茂中)	藤本恒幸(井川中)	尾崎真紀(池田一中)	新見哲也(大野中)	大倉俊之(西祖谷中)
12	宮成万寿美(三野中)	川人勝久(三好中)	内田公生(池田中)	白井正道(山城中)	宮成誠樹(東祖谷中)
13	玉木富美子(三加茂中)	川人祐子(井川中)	西岡ひとみ(池田一中)	板東祥子(西祖谷中)	/
14	辺見俊二(三野中)	入江宏明(三好中)	川人恵美(池田中)	根津道子(東祖谷中)	
15	坂部公章(三加茂中)	山内幸子(井川中)	高田和枝(池田一中)	大谷一幸(山城中)	
16	村上義昭(三野中)	野田圭祐(三好中)	峰友眞弓(池田一中)	安田恵(西祖谷中)	
17	玉木利典(三加茂中)	立花久(井川中)	久保喜昭(池田中)	岡本博一(東祖谷中)	
18	木藤和恵(三好中)	宮浦理恵(三野中)	沖原真紀(西祖谷中)	丸岡美枝(山城中)	
19	藤本智恵(三加茂中)	大石さえ子(井川中)	中川浩幸(池田一中)	ナサーニョ・デネヒー(東祖谷中)	
20	垂水恵子(三好中)	窪田和弘(三野中)			
21			尾嶋麻子(池田中)	山口雄三(山城中)	
22	渡辺仁(三加茂中)	近藤幸(井川中)			
23			常村淳(西祖谷中)	山口義明(東祖谷中)	
24	片山徹(三好中)	小出真理子(三野中)			
25			細川誠治(池田中)	峰友眞弓(山城中)	
26	佐藤篤史(三加茂中)	伊藤憲志(井川中)			
27			芳川未弥(西祖谷中)	岡田祐佳(東祖谷中)	